

11月も半ばを越えてきました。あせらず、今日も一步を主にあつて踏みしめていきましょう。

1. シモンの家に (1章29節)

- ①会堂を出るとすぐに イエス様は時間をとても大切にされていたのでしょう。会堂で教えられたのですから、疲れていたことでしょう。しかし、休むこともなく、会堂を出るとすぐに次の目的の場所に向かうほどに計画的であった様子がわかります。
- ②ヤコブとヨハネを連れて キリストに従ってきたばかりのヤコブとヨハネを連れていくというところにも、イエス様のお働きの特徴が表れています。こういうことを当り前のように思いがちなのですが、存外にむずかしいことです。弟子たちを育てるといふ愛に基づく意志がないとできないのです。ヤコブとヨハネにも経験させたかったのでしょう。見て、聞いて、体に触れて、主の愛を学んでほしかったのでしょう。
- ③シモンとアンデレの家に シモンとアンデレは、ヤコブとヨセフより前にイエス・キリストに従って来た者達です。その2人のところに、なんの躊躇もなく行かれたというところからは、主が強い目的を持って、向かっておられたと思われまます。

2. 熱病でうなされ (1章30節)

- ①シモンのしゅうとめ シモンとは後のペテロのことです。彼が結婚をしていたということがここからわかるのです。シモン・ペテロはキリストの導きに従いました。しかし、彼には家庭がありました。妻のことを考えると、むやみには従えないという状況もあったのです。シモンの妻はクリスチャンであったことは、間違いないでしょう(参照Iコリント9:5)。彼女には母がいて同居していたようです。50～60代の方でしょうか。それは想像です。
- ②熱病で床に シモンの妻の母は何らかの熱病に罹患していました。どんな病気によるものかはわかりません。床に入って、苦しんでいました。高熱を発して、うなされていたことでしょう。あなたにも熱が出て、氷枕をして額に濡れたタオルをあててもすぐにそれが熱くなってしまうようなことがあったでしょう。
- ③人々は知らせた イエス・キリストの到来を知ると、人々はシモンのしゅうとめの病状をすぐに知らせにきました。実をいえば、そのことをイエス様はあらかじめ知っておられたと考えられます。でも、この知らせるといふ行動を主は用いられるのです。私達の実情を主は何もかも知っておられます(詩篇139)。しかし、そのことを主の前に祈ることを主は待っておられるのです。

3. もてなすしゅうとめ (1章31節)

- ①彼女に近寄り イエスは彼女に近寄られます。主があなたに近づいてくださるというのは幸いなことです。あの時も、木に登ったザアカイに主ご自身が近づいてきて、語って下さいました(ルカ19:5)。「主よ。私に近づいてきてください。」という祈りは、実際の有効でありましよう。
- ②その手を取って 主はしゅうとめの「手を取って起こされた」のです。近づいてくださることが第一歩ならば、手を取っていただくのは第二歩。お医者さんでいえば、診察です。しかし、イエスさまの場合はそれ自身が治療でもあります。愛のわざです。主の不思議な力がこの女の内に働かれる時でした。熱くなっていた手を取って、主はしゅうとめの体を起こされたのです。
- ③熱がひき するとすぐに熱がひきました。あれだけうなされていた高熱があつという間に引いたのです。熱が引く時に、汗びっしょりになった経験がどなたにもあるでしょう。おそらく彼女もそうだったでしょう。しかし、少し前まで伏せていたのですから、疲弊しきっています。体力も衰えていたでしょう。ところが、「彼女は彼らをもてなした」とあります。病み上がりというよりも、熱が引いたばかりの人が、もてなしを始めたというのです。単なる頑張りではありません。気分はもちろん体力も元にもどされたのです。彼女は完全に回復していたのです。

【結論】 この記事を読む時に、しゅうとめの元気に注目する人がいるでしょう。病み上がりなのに、よほどの働き者だと思うでしょう。しかし、ここはむしろそのようにさせてくださった主に目をとめるべきでしょう。主が手を伸べてくださったので、彼女はいやされたのです。その愛のみわざは特別でした。完全ないやしでした。中途半端な回復ではなく、すぐに健康体と同じ状態にしてくださったのです。これは空元気ではありません。この記事は、はつらつとされてもてなしている姿を想像させています。主は中途半端にはなさないということを物語っています。主は私達に対する救いのみわざを最後まで成就なされる方です。その愛を私達に完全に表して下さる主です。ですから、あなたが主を信じているのなら、私達の病も、壊れた人間関係も、難しい仕事も、隠れた悩みも、完全に回復するように祈りましよう。喜ばしかったことを私達は、昨日のように覚えています。30年前のことでも鮮明に記憶がよみがえってきます。シモンのしゅうとめにとって、この出来事は生涯忘れられなかったでしょう。あなたにも同じようにあなたの手を取り起こして下さることでましよう。そう信じていきましょう。

長井希望 長井優信

中島 輝 中島 翔